

肝胆膵領域治療の短期・長期予後調査

2000年1月1日から2022年3月31日までに肝胆膵脾疾患治療を受けた患者さまとご家族さま

研究協力をお願い

当科では「肝胆膵領域治療の短期・長期予後調査」という研究を行います。この研究は、2000年1月1日より2022年3月31日までに日本医科大学多摩永山病院消化器外科にて、肝臓・胆管/胆嚢・膵臓・脾臓疾患（以下、肝胆膵脾疾患）のために治療を受けられた患者さまの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：肝胆膵領域治療の短期・長期予後調査
研究予定期間：倫理委員会承認日から2022年12月31日
調査対象期間：2000年1月1日から2022年5月31日
研究責任者：日本医科大学多摩永山病院 消化器外科 助教・医員 古木 裕康

(2) 研究の意義、目的について

この研究の目的は、当院で肝胆膵脾疾患の治療を受けた全ての患者さまの治療成績を集積し、今後の治療成績を改善させ、より安全な治療を目指していくものです。肝胆膵脾疾患の治療は、肝臓や胆管/胆嚢、膵臓、脾臓にできた腫瘍や胆管/胆嚢にできた結石、膵・胆管合流異常症や脾機能亢進に伴う血球減少に対し、手術または保存的療法や化学療法、放射線療法などの非手術治療がございます。医療の進歩・データの蓄積により手術を含めました治療法の安全性は高まりましたが、手術のタイミング（緊急や予定）やアプローチ法（開腹や腹腔鏡）、術式や術前・術後化学療法、保存的療法など様々ある治療法のなかで、より安全に、より効果的な治療を行なっていくために、現状の治療成績を把握し、検討することで今後の治療方法の改善を図れます。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2000年1月1日より2022年3月31日までに日本医科大学多摩永山病院消化器外科にて、肝胆膵脾疾患の手術治療または保存的療法や化学療法、放射線療法などの非手術治療を受けた患者さまの治療介入前後の臨床経過や検査結果、病理所見、術中所見などのデータ集積・解析し、予後因子について検証します。長期間来院がなく長期予後が不明な場合も、カルテに保存された最終診察までのデータを使用しますので、この研究のために検査や来院の追加をいただく必要はございません。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

担当者：消化器外科 古木 裕康
日本医科大学多摩永山病院 倫理委員会事務局
〒206-8512 東京都多摩市永山1丁目7-1
電話番号：042-371-2111（代表） 内線：2302
メールアドレス：nagayama-chiken_center@nms.ac.jp